

1. 基本理念

水源を育み 恵み豊かな自然を次世代へ

～いつまでも自然と人が共生するまち相模原をめざして～

本市では、これまで、貴重な水源林や道志川等の清流、相模川等の潤いある水辺環境や人々が親しみ、集う身近なみどりを次世代に継承するため、市民、事業者、行政等の多くの主体との連携・協働により取組を展開してきました。

これらの取組により、自然環境の改善や身近なみどりや水に親しめる場所の形成等が進展しているものの、森林や農地の荒廃、緑被地の減少、生物多様性にせまる危機等の課題への対応は今後も継続する必要があります。

また、近年は、気候変動の影響が顕在化しており、自然資源及び生物多様性の持続可能な利用の必要性がより強く求められており、更なる取組を展開する必要があります。

私たち一人ひとりが、自然の恵みを将来にわたって享受できることを共通の価値として捉え、全ての生命の生存基盤である、みどりや水、生物多様性を次世代に継承することが求められています。そのため、一人ひとりが、みどりや水、生物多様性の重要性についての理解を深め、環境に配慮したライフスタイルを実践し、市民、事業者、行政等多様な主体間の連携・協働による取組を進めることで、「自然と人が共生するまち相模原」の実現を目指します。



相模川と河岸段丘

2. 将来像

(1) 将来イメージ

基本理念に基づき、おおむね 10 年後の本市の水とみどり、生物多様性の将来像を示します。

水とみどりの将来像

- 適切に管理された森林や里地里山が広がり、
市街地にも身近なみどりがあふれ、安心や安らぎを感じられるまちになっている。
- みどりや水辺の拠点を中心に、様々な交流が行われ、魅力あふれるまちになっている。

生物多様性の将来像

- 生物多様性の重要性・必要性を広く市民が認知し、
生物多様性に配慮した生活や事業活動が展開されている。
- エコロジカルネットワークが形成され、生物多様性が保全されている。

共通する将来像

- 市、市民及び事業者が連携して水やみどりに関わる様々な活動を実施している。
- 環境意識が高まり、市民や事業者が自然と共生した活動を行っている。

(2) 将来像図

将来イメージを踏まえ、以下の要素で構成した水とみどりの将来像図を示します。

◇将来像の要素と考え方◇

- 【ゾーン】 自然環境特性や土地利用状況を踏まえた地域の役割・方向性で分類
- 【軸と核】 市全体の水とみどりの骨格(線的な骨格を「軸」、面的な骨格を「核」)
- 【拠点】 水やみどりと人々がふれあう場

① ゾーンの設定

名称	役割・方向性
水源保全ゾーン	自然公園である丹沢大山国定公園や、県民の貴重な水がめとなっている相模湖や津久井湖等、水源地としての水源かん養機能、生物の生息・生育環境や優れた自然景観等の豊かな自然環境と人々が共生しながら、主に水源の保全・再生を図る地域を「水源保全ゾーン」に位置付けます。
都市緑化ゾーン	木もれびの森や河川沿いの斜面林等のまとまった緑地、公園、広場、農地、街路樹等、主に都市部の緑化や身近な自然の保全・創出を図る地域を、「都市緑化ゾーン」に位置付けます。

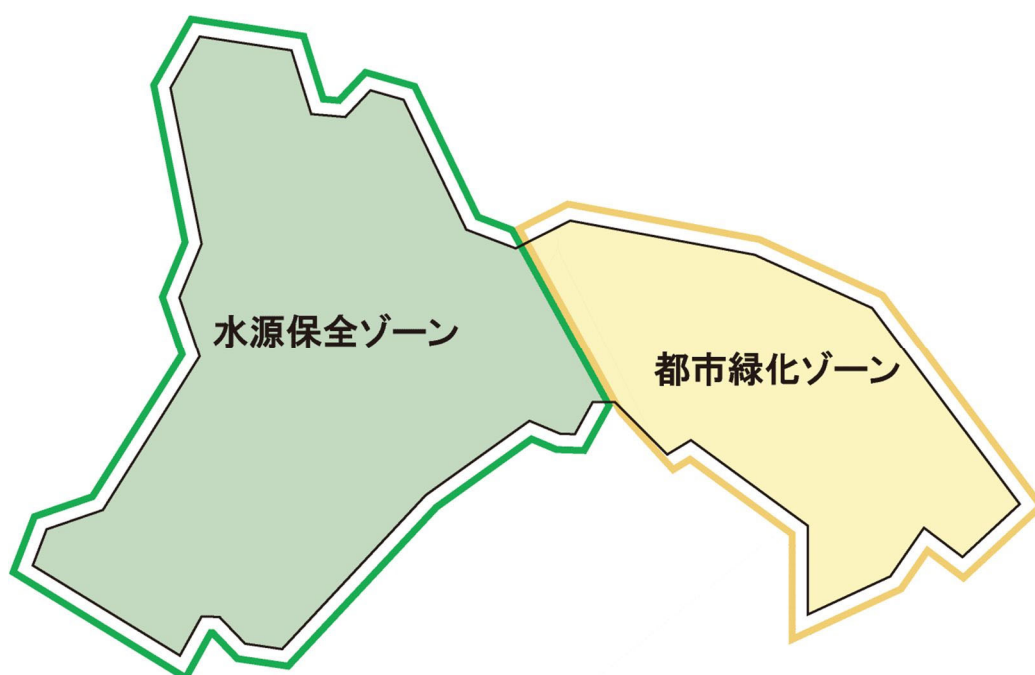


図 2-1 ゾーン区分

② 軸と核の設定

名称	役割・方向性
水とみどりの軸	エコロジカルネットワークにおける「回廊」の役割を果たす相模川とその斜面林、道志川、横山丘陵緑地等の斜面林と一体となった道保川、姥川、八瀬川、市境を形成する境川とその河畔林を「水とみどりの軸」に位置付けます。
水とみどりの核	市域を越えた自然が連なり、豊かな森林と幾多の沢、水源かん養機能や生物の生息・生育環境を形成する等多様な機能を有し、エコロジカルネットワークにおける「核」の役割を果たす丹沢大山国定公園、県立陣馬相模湖自然公園及び県立丹沢大山自然公園を「水とみどりの核」と位置付けます。

※水とみどりの軸や水とみどりの核が市域を超えて、連続するものを「みどりの連なり」と呼びます。

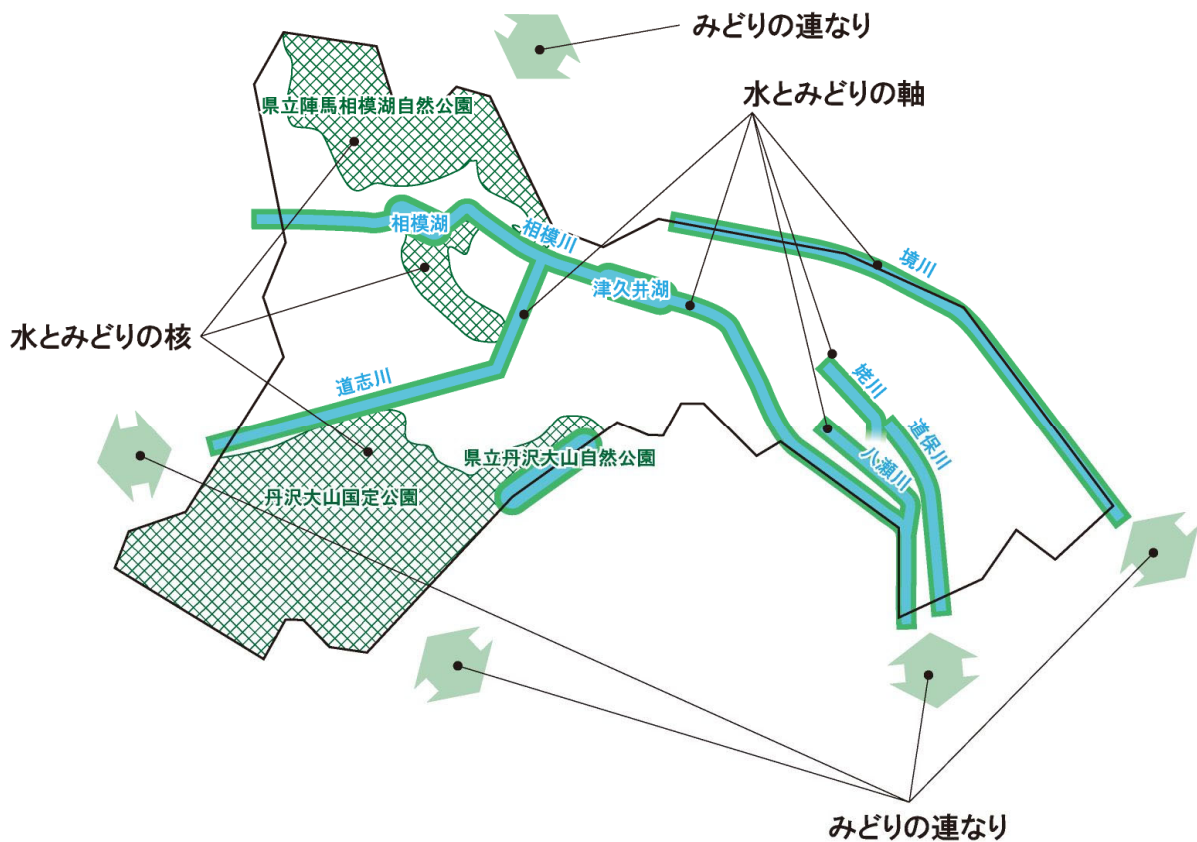


図 2-2 軸と核の配置



県立陣馬山相模湖自然公園

津久井湖

③ 拠点の設定

名称	役割・方向性				
水とみどりのふれあい交流拠点	2つのゾーンと水とみどりの軸が交わるとともに、豊富な自然資源である津久井湖や城山湖のほか、県立津久井湖城山公園等の大規模な公園、里地里山の景観、一都六県を結ぶ自然歩道である関東ふれあいの道等が立地し、人・自然・まち・文化・歴史等が交流するエリアを「水とみどりのふれあい交流拠点」に位置付けます。				
水辺の拠点	相模湖や宮ヶ瀬湖といった大規模な水辺のほか、さがみグリーンラインや相模川自然の村といった親水空間の形成を図る主な水辺を「水辺の拠点」に位置付けます。				
	<table border="1"> <tr> <td>大規模な水辺</td> <td>相模湖、宮ヶ瀬湖</td> </tr> <tr> <td>主なふれあいの場</td> <td>さがみグリーンライン、青根周辺・緑の休暇村、青野原周辺の親水施設、青山親水公園、相模川自然の村、相模川ふれあい科学館、橋本河畔林、古淵鶴野森公園、高木道正山河畔林</td> </tr> </table>	大規模な水辺	相模湖、宮ヶ瀬湖	主なふれあいの場	さがみグリーンライン、青根周辺・緑の休暇村、青野原周辺の親水施設、青山親水公園、相模川自然の村、相模川ふれあい科学館、橋本河畔林、古淵鶴野森公園、高木道正山河畔林
大規模な水辺	相模湖、宮ヶ瀬湖				
主なふれあいの場	さがみグリーンライン、青根周辺・緑の休暇村、青野原周辺の親水施設、青山親水公園、相模川自然の村、相模川ふれあい科学館、橋本河畔林、古淵鶴野森公園、高木道正山河畔林				
みどりの拠点	相模湖林間公園、相模原北公園、横山公園等の大規模な公園や、市街地に残された貴重な緑地である木もれびの森、東林ふれあいの森等を「みどりの拠点」に位置付けます。				
	<table border="1"> <tr> <td>大規模な公園等</td> <td>(仮称)相模原市市民の森、相模湖林間公園、相模原北公園、横山公園、淵野辺公園、県立相模原公園、相模原麻溝公園</td> </tr> <tr> <td>市街地の緑地</td> <td>木もれびの森、東林ふれあいの森</td> </tr> </table>	大規模な公園等	(仮称)相模原市市民の森、相模湖林間公園、相模原北公園、横山公園、淵野辺公園、県立相模原公園、相模原麻溝公園	市街地の緑地	木もれびの森、東林ふれあいの森
	大規模な公園等	(仮称)相模原市市民の森、相模湖林間公園、相模原北公園、横山公園、淵野辺公園、県立相模原公園、相模原麻溝公園			
市街地の緑地	木もれびの森、東林ふれあいの森				

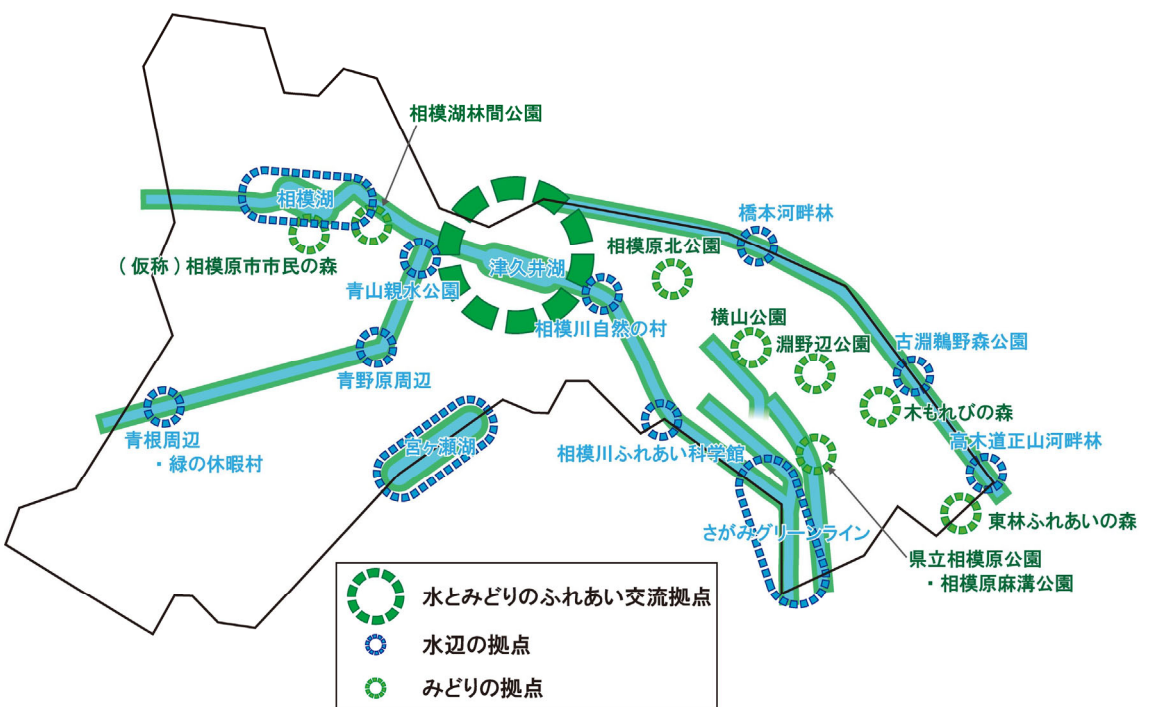
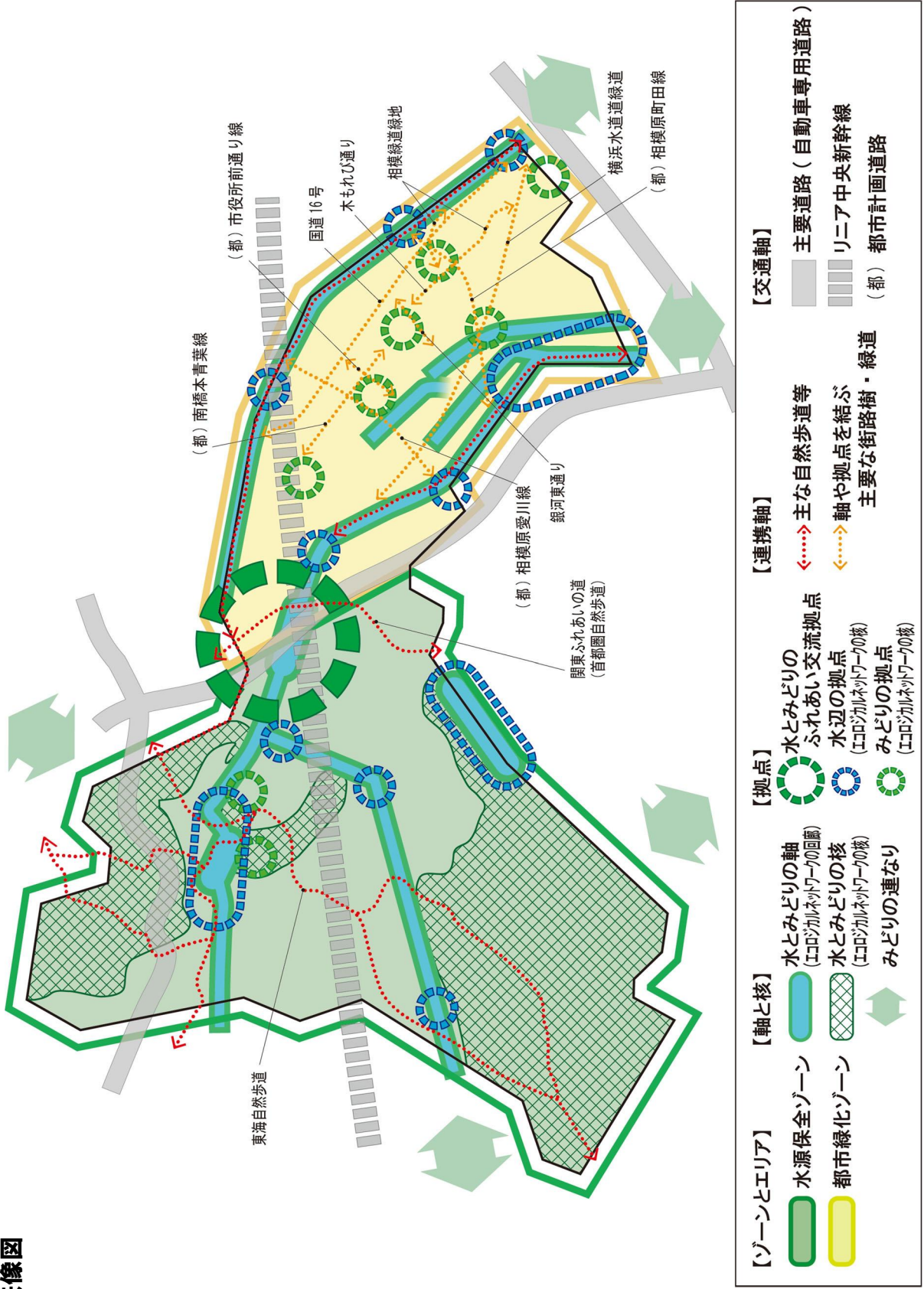
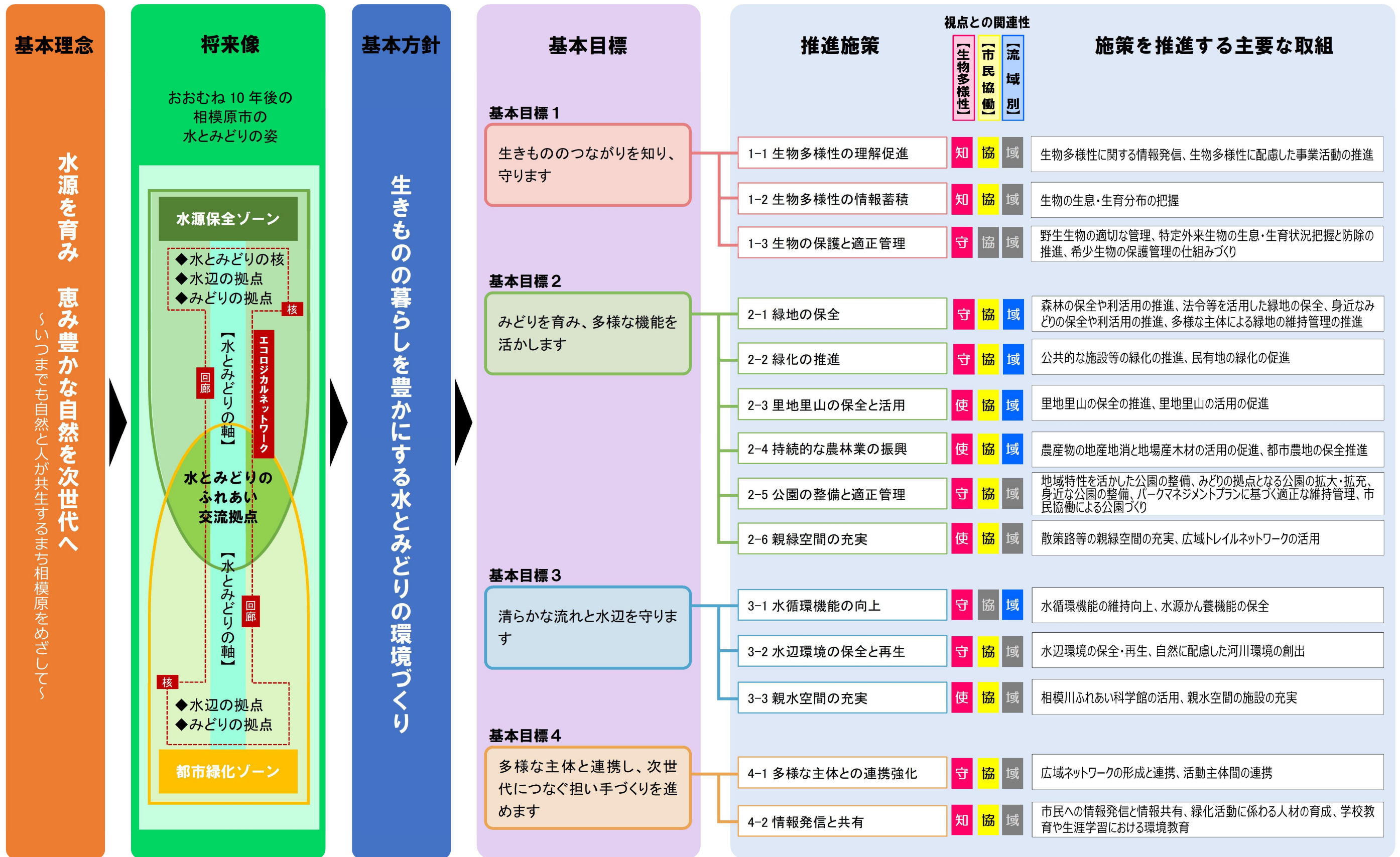


図 2-3 拠点の配置

将来像図





※視点との関連性の項目において、「生物多様性」「市民協働」「流域別」の各視点と推進施策との関連性を示しています。
 【生物多様性】との関連性は、生物多様性を「知る」「守る」「使う」の中から推進施策と最も関連性が高いものを選定し「知」「守」「使」で示しています。
 【市民協働】との関連性は、市民協働で取組むことが必須の推進施策又は市民協働で取り組むことでより効果が高まる推進施策に「協」を示しています。
 【流域別】との関連性は、施策を推進するに当たって、流域別で取組内容に大きな差異が生じる推進施策に「域」を示しています。